【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成22年5月20日(2010.5.20)

【公表番号】特表2009-535970(P2009-535970A)
【公表日】平成21年10月1日(2009.10.1)
【年通号数】公開・登録公報2009-039
【出願番号】特願2009-509495(P2009-509495)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｊ　11/00　　(2006.01)
Ｈ０４Ｗ　72/04　　(2009.01)
Ｈ０４Ｗ　72/12　　(2009.01)
Ｈ０４Ｊ　 1/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｊ　11/00　　Ｚ
Ｈ０４Ｑ　 7/00　５４８
Ｈ０４Ｑ　 7/00　５６０
Ｈ０４Ｊ　 1/00

【手続補正書】
【提出日】平成22年3月30日(2010.3.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項５】
所与のスケジューリング区間にスケジューリングされている複数のユーザ装置についての受信信号電力密度の最大値と最小値との間の差が許容差を超えているか否かを判定することに基づいた条件を基本として、前記同一のスケジューリング区間に配置された複数のユーザ装置について受信信号電力密度の希望値をシグナリングするステップをさらに備えることを特徴とする請求項２に記載の方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項６】
所与のスケジューリング区間にスケジューリングされている複数のユーザ装置についての受信信号電力密度の最大値と最小値との間の差が許容差を超えているか否かを判定するステップと、
前記差が前記許容差を超えていれば、前記複数のユーザ装置のうちの１つ以上のユーザ装置に、該１つ以上のユーザ装置のそれぞれの受信信号電力密度を搬送するための１つ以上の送信パラメータを調整するために、該１つ以上のユーザ装置にシグナリングを実行するステップと
をさらに備えることを特徴とする請求項２に記載の方法。
【手続補正３】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１９
【補正方法】変更

【補正の内容】
【請求項１９】
前記１つ以上の処理装置は、
所与のスケジューリング区間にスケジューリングされている複数のユーザ装置についての受信信号電力密度の最大値と最小値とのの間の差が許容差を超えているか否かを判定することに基づいた条件を基本として、前記同一のスケジューリング区間に配置された複数のユーザ装置について受信信号電力密度の希望値をシグナリングするように構成されていることを特徴とする請求項１６に記載の基地局。
【手続補正４】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項２０】
前記１つ以上の処理装置は、
所与のスケジューリング区間にスケジューリングされている複数のユーザ装置についての受信信号電力密度の最大値と最小値とのの間の差が許容差を超えているか否かを判定し、前記差が前記許容差を超えていれば、前記複数のユーザ装置のうちの１つ以上のユーザ装置に、該１つ以上のユーザ装置のそれぞれの受信信号電力密度を搬送するための１つ以上の送信パラメータを調整するために、該１つ以上のユーザ装置にシグナリングを実行するように構成されていることを特徴とする請求項１６に記載の基地局。